

**平成２２年度市民討議会提言内容の進捗状況一覧表
(平成27年度末現在)**

討議 テーマ 1	安心な生活をするために地域、家庭でできる防災対策とは？		
提言	防災訓練、災害指導、携帯電話を利用した災害情報の伝達の具体的な手法の企画や、全ての地域の市民が情報の周知ができるシステムの充実を求めます。		
詳細	進捗状況		関係部署
市民が喜んで参加できる防災訓練の企画を望みます。	訓練を実施する地区の役員やおとどけセミナー希望者などと訓練内容の事前協議を行い、可能な限り要望に応じた訓練を実施するようにしています。（平成24年度実施分以降）		企画防災課 (終了)
小・中・高生への災害指導の企画を望みます。	現在は、おとどけセミナーなどの実施に当たっては、申込者の要望に沿う形で実施しており、学校側から災害指導などの申し入れがあれば、同様に対応しています。（平成23年度に小学生年代を対象としたおとどけセミナーを実施）		企画防災課 (終了)
転入者に対して地域・行政は、多治見市で行なわれている防災の知識を提供することを望みます。	転入者に配布する「多治見暮らしの便利帳」に、従来からある避難所や防災倉庫などの防災情報に加え、平成27年度から土砂災害ハザードマップを掲載し、転入者に対して危険度と災害対応に関する情報をまとめて提供できるようにしました。		企画防災課 (終了)
携帯ショップにて緊急メール登録のあつせんを望みます。	平成25年度時点において、ドコモショップで緊急メール登録についての斡旋を依頼済みです。その他の携帯電話ショップにも拡大していきます。		企画防災課 (終了)
討議 テーマ 2	市民がまちに誇りと愛着をもつためには？		
提言	多治見の魅力の情報発信や企業を誘致して雇用の安定、また、市民の利便性の向上及び幅広い年齢層の方々が参加できる、ボランティア活動できる場の企画を求めます。		
詳細	進捗状況		関係部署
高齢者、車を運転しない人への公共交通機関の充実を望みます。	コミュニティバスの中心市街地線を改編し、併せて路線バスからの乗り継ぎ制度を導入しました（平成25年4月15日）。路線バス昼間運賃の200円上限制度の社会実験（平成24年11月1日～平成25年1月31日）を行いました。		都市政策課 (終了)
多治見の魅力の発信をするためにメディアの活用、他地域との交流の場を設けることを望みます。	イベント、催事などの情報は日々、報道機関へ情報提供しており、特に大きな規模のものは定例記者会見で直接情報提供しています。また、JRと連携して誘客事業として、旅行商品を開発しています。全国のイベントや展示会などに出かけて、多治見市のPRしています。その際には、うながっぱを有効的に活用しています。		秘書広報課 (終了)
地域を活性化するために企業を誘致して雇用の安定を望みます。	市が分譲していた全てのテクノパーク（工業用地）に企業の進出が完了しました。今後は多治見長瀬テクノパーク開発事業を推進するとともに、各テクノパークに進出した企業の地元定着支援を続け、地域経済への波及効果を拡大していきます。		企業誘致課 (終了)
市民の意識を改革するために、老若男女誰でも参加できるボランティア活動できる場の企画を望みます。	市民活動交流支援センターで、市民活動団体および個人を登録すると、団体や個人活動者について照会があった場合、該当団体（者）を紹介することで活動の場に関する情報を提供しています。また、NP0見学ツアーを実施し、市内NP0の活動状況を知ってもらう機会としています。		くらし人権課 (終了)
環境を向上させるために自然環境の保全と強化を望みます。	平成25年3月策定の第2次環境基本計画に基づき、市民・事業者・市の三者の連携協力を強化し、環境教育の推進、地球温暖化対策の推進、夏の暑さ対策の推進、野生動植物の生態の保全を重点的に取り組むこととしました。		環境課 (終了)

討議 テーマ 3	これからはどのような地域コミュニケーションの在りかたが必要ですか？		
提言	情報を活用しての地域コミュニケーションの企画づくり及び、地域のリーダー的な人材を育成しコミュニティの充実、またイベントの企画を通じて地域での交流を図る企画を求めます。		
詳細	進捗状況		関係部署
多治見の魅力を再認識するために、市民に向けた情報発信を望みます。	平成22年度には、市勢要覧を作成し全世帯へ配布しました。民間と共同で「多治見暮らしの便利帳」を作成し、平成25年広報たじみ4月号とともに全世帯へ配布しました（2回目）。		秘書広報課 （終了）
情報を使ってのコミュニケーションを図るために、シニア学校やインターネットでコミュニケーションができるサイトの作成を望みます。	インターネット利用方法やソーシャル・ネットワーキング・サービス活用講座を開催し、情報を取得するだけでなく発信できるようにすることで地域情報化の推進に繋がっています。 また、65歳以上の方の新たな学習の場として設立した多治見市桔梗大学は“生きがい”“仲間”を育む市民大学として時代に応じて形や内容を変えながら学習活動の機会を提供するとともに“人と人をつなぐ場”の提供をしています。		情報課 文化スポーツ課 （終了）
老人とのコミュニティを図るために、民生委員の数を増やすことを望みます。	平成22年の民生委員・児童委員の一斉改選時に1人増員し、208人となりました。平成25年12月1日の一斉改選では増員はありませんでした。		高齢福祉課 （終了）
討議 テーマ 4	安心で愛着のもてる「住みやすいまち」にするには？		
提言	安心で愛着のもてる「住みやすいまち」にするために、防災意識の向上、地域コミュニティの充実、各地域の活性化に繋がる市全体で実施する市民参加型のイベントの企画、開催を求めます。		
詳細	進捗状況		関係部署
シニア学校等をつくり高齢者に活躍の場を与え、若い人が参加できる特色のある行政サービスを望みます。	市の高齢者学校である桔梗大学は、“生きがい”“仲間”を育む市民大学として時代に応じた学習活動の機会を提供しています。平成24年度からは公開講座を新たに開設し、学生以外にも広く門戸を開いています。また、公民館などでは、幼児から高齢者までの多世代を対象とした学習講座やそれぞれの地域の特色ある事業を展開しています。		文化スポーツ課 （終了）
多治見市の強みが分かりやすいキャッチフレーズの作成を望みます。	最高気温を記録したまちとして、“アツい”を“気温”と“もてなし”に掛け合わせたキャッチフレーズ「日本一アツい多治見はおもてなしもアツい！」を創りました。 観光パンフレット・マップ・グッズなどにこのフレーズを使用しています。また、ぎふ清流国体など市外からのお客様を迎える機会には、心構えとしてこのフレーズを使用してスタッフの接客意識を高めています。		企画防災課 （終了）
各地域で会場を持ち回りにした、市全体で実施する市民参加型のイベントの企画、開催を望みます。	笠原中央公民館で昨年に引き続き、本格的市民参加型の「だれでも参加できる音楽劇」を開催しました。舞台に向けた半年間にわたる稽古では、高校生から70歳代の幅広い参加者が力を合わせ、質の高い事業を作り上げています。		文化スポーツ課 （終了）
市民がイベントなどに参加しやすいように、交通手段が無い地域の交通網の整備を望みます。	地域の実情に合った地域内交通を、住民が主体となり検討・導入する支援を行っています。根本地域において、住民が運営主体となった地域内交通が導入（平成25年9月2日）されました。		都市政策課 （終了）